
ホラ、君も差別してるでしょ？

国後旺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ホラ、君も差別してるでしょ？

【Nコード】

N9552D

【作者名】

国後旺

【あらすじ】

「差別は駄目です」…その中に、例外を作っていないかな？（ジャンル：エッセイ）

(前書き)

ウソは書いてない。

「人を殺しては駄目です」と、人は言う。

それを聞けば、当たり前じゃん？ で、終わるだろう。

でもさ、

「虫を殺しては駄目です」と、誰かが言ったとするよ。

それを聞いても、当たり前じゃん？ では終わらないよ。人は虫を殺すからね。

虫を殺しても罪には問われない。それはなぜ分かる？

「虫「は」殺していい」これが世の中だからだよ。爆笑だね。
だってさ、対象が虫でも人でも、殺すという行為に変わりはないんだよ？ 命を潰すんだから。それなのに虫を殺したら駄目なんて法律はないんだよ？ すげー、すげー。人類がいかに自己中なのかが分かるよ。

生きる権利は平等にあるというけれど、そんなのウソ、ウソ。

その中に入ってるのは人類だけだよ。それも一握りの。人以外の動物にはそんな権利の存在すら無いから。

例え話 「あなたは犬を飼っています」

この時点ですでおかしいよね。 だってそうじゃない？ なんてその犬は飼われなきゃいけないの？ おかしくない？ 犬が「俺を飼え」とか言っただなら飼っても…まあ、良いよ？ でもさ、そんなこと言う奴は、犬に限らずいないと思うよ？ だって、わざわざ自分の生涯を自ら縛る奴なんていないじゃん。 いたしたらそれは思考回路が変態サンなのさ。

でもね、人はそんなことすら分かってないんだよ。 自分の都合の良いように解釈し、自分以外の生物の存在を、自分の良いように縛りつけてるんだ。

「この子（犬）は私に甘えている」 そんな根拠は何処にあるんだろうね？

そう、そんなものは何処にもない。 ただの空想ショートコント。

まあ、なにが言いたかったって言うと、

人は皆、自分以外を知らず知らずに見下してるってことよ。

でもさ、それで良いんじゃない？

差別してるから、他の命を食べられるんだから。

差別をしない奴なんて何も食べられないよ？ 今着てる服だってそう。 動物の毛とかを良いようにもてあそんで作られてるんだし。

毛とかを使われた奴の意見なんて無視よ？

だから本当に「差別は駄目です」と言ってる奴は服なんか着ないし、何も食べないんだよ。でも、そんなことできないでしょ？

だから今まで通り、差別しながら生きるしかないんだよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9552d/>

ホラ、君も差別してるでしょ？

2010年10月15日19時23分発行